

2014年3月31日

リーディング大学院屋久島研修報告書

人類進化モデル研究センター

技術職員 夏目尊好

3月13日～3月15日の日程で屋久島にておこなった研修について報告する。

- ・日程：3月13日(木)～3月15日(土)
- ・目的地：西部林道、白谷雲水峡ほか
- ・同行者：鈴木崇文（野生動物研究センター 技術職員）
森本真弓、愛洲星太郎（人類進化モデル研究センター 技術職員）

13日は移動日だったので実際に屋久島に滞在したのは14、15日の2日間のみであったが、野生のヤクシマザルを間近で観察し、彼らが暮らす屋久島の環境を体感できた。

14日と15日の午前にヤクシマザルの観察をおこなった。西部林道を車で移動しながら、サル鳴き声や木の不自然な動きを手掛かりにサルを探した。西部林道を往復しながら探していると車道に寝転がってグルーミングしたり、道の脇でかたまっているヤクシマザルの群れに遭遇した。私たちの車や他の観光客の車が近付いても驚いて逃げ出すことはなかった。しかし、それは遭遇した群れがたまたま人慣れしている群れだったため、すべてのヤクシマザルが人を警戒しないわけではないようだ。ヤクシマザルは霊長研で飼育しているニホンザルとは異なり、毛色が灰色に近く、体型も手足が短くてずんぐりむっくりといった印象であった。また降雪地帯で暮らすサルのような体毛の長さであった。緯度は低いが、標高1900mを超える宮之浦岳がある屋久島の環境に適応した身体は、本州のニホンザルとは異なっており、おもしろかった。

14日の午後は、西部林道の道路から外れて斜面を下って森の中でサルを探した。森の中は、大きな木が生えているだけで下草や若木はほとんど生えておらず、まるで手入れが行き届いた公園の雑木林を歩いているようだった。これはシカの採食圧によるものとのことだった。シカの食害に関する話はよく耳にするが、実際に目の当たりにするのは初めてだったので、これほどの状態になることに驚いた。

15日の午後は、白谷雲水峡を訪れた。白谷雲水峡は、入口には遊歩道が整備されており、誰でも少し歩くだけで屋久杉を見ることができ、奥へ進むとそのまま登山ルートに入ることもできるらしく、各自の目的に合わせて屋久島の自然に触れることができるようになっていた。今回は2時間ほどしか時間がなかったので、「二代大杉」と呼ばれている杉まで往復した。短い距離と時間ではあったが、屋久杉の森を堪能することができた。見たことがないほど大きく太い杉と、びっしりと苔が付着した倒木や岩があふれる森は、前日にサルを探しに入った森とはまったく雰囲気が異なった。狭い島内にこれほど異なる環境が、ゆるやかに変化しながら繋がって存在しているのはとても興味深かった。

久しぶりのフィールドワークでサルを観察したことは、改めて普段の業務への良い刺激となった。また、技術職員間の情報交換もできてとても有意義であった。サルを扱う技術職員として、野生動物研究センターの鈴木氏だけでなく、霊長研の技術職員も毎年屋久島実習などに同行し、その補助などができるような体制ができればよいと思った。また、機会があったらぜひ屋久島を訪れたいと思う。

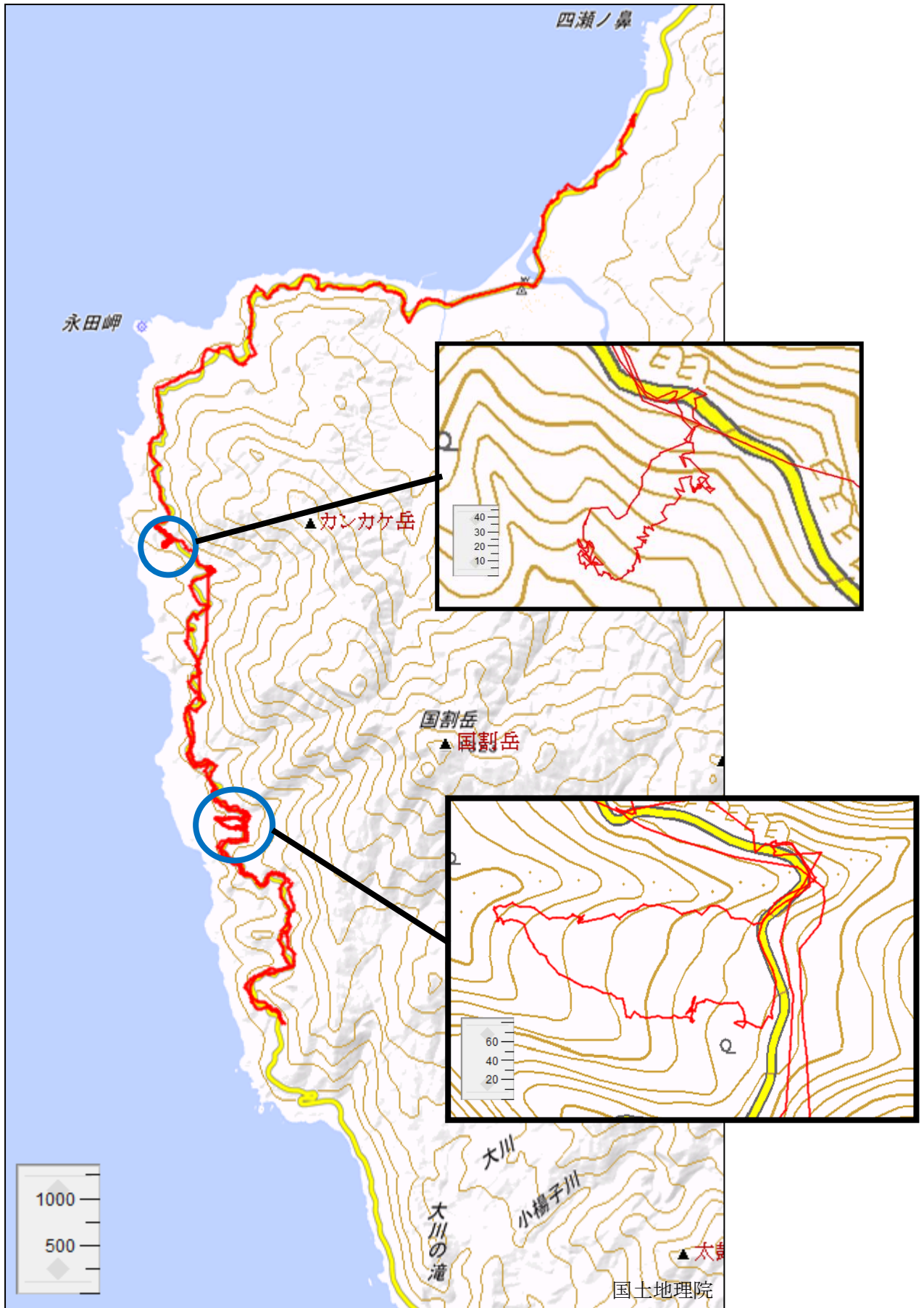


図 1. 14 日サル観察の GPS 記録

(拡大した部分は、西部林道から外れ、森に入った箇所)



写真 1. 屋久島観察ステーション



写真 2. ヤクシマサルとヤクシカ



写真 3. 道で遭遇したヤクシマサルの群れ



写真 4. 道端でグルーミング



写真 5. 西部林道を外れてサルを搜索



写真 6.白谷雲水峡の入口付近
(遊歩道が整備されており、歩きやすい)

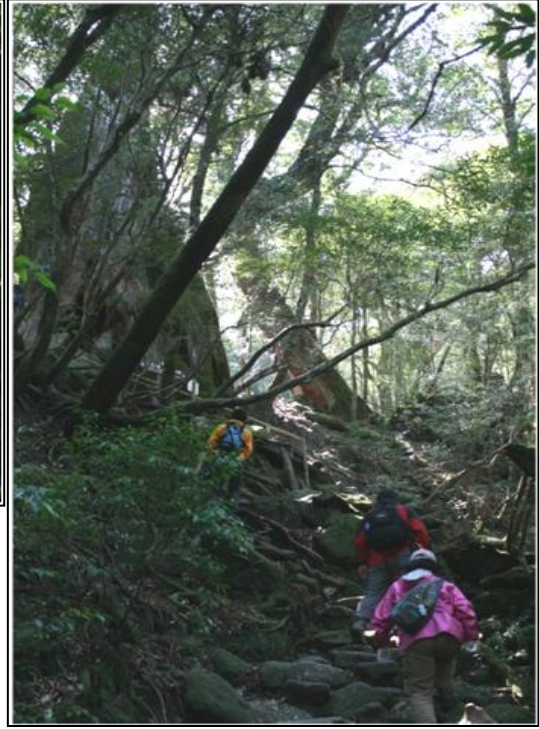


写真 7.二代大杉 (写真左上部) 直前
(入口から1時間ほど)